

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和3年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2021-3	高速道路における Proactive 型交通マネジメント方策についての研究開発	岐阜大学 教授 倉内 文孝	A
<p><研究の概要></p> <p>本研究は、AI 技術を活用した交通状況ナウキャストをトリガーとし、ゲーミフィケーションによる行動変容提案のデザインアルゴリズムを構築し、チャットボットを通じて走行中に安全に行動変容提案をする Proactive 型交通マネジメント方策を開発するものである。</p> <p><中間評価結果></p> <p>研究計画に沿ってシステムが概ね構築される等、順調に進捗している。実証実験による改良等を踏まえ、Proactive 型交通マネジメントの実導入に資する成果がとりまとめられることを期待する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. 本研究の成果・アプローチが他の地域等にも容易に展開できるよう、適用場面に応じたゲームの設計方法等の一般化や、開発したツールの公開等について配慮をお願いしたい。2. 実証実験が実道において実際の道路利用者を対象として実施できなかった場合でも、最終年度の成果がとりまとめられるよう、代替手段等を想定して対応していただきたい。3. 「ゲームの中で高得点は獲得しているものの実際の運転挙動としては危険である割合が約 43%生じる」という結果について、DS によるバイアスと考えるのか、ゲーミフィケーションを実際に導入することの危険性と考えるのか、について整理が必要。前者であれば DS で得られる知見の現実性が問われることになり、後者であれば研究成果の実用化に向けた大きな課題であると思われる。4. 「交通状況ナウキャストモデルをリアルタイムで運用するには NEXCO 西日本のデータサーバからデータを順次入手しなければならない、この機能が実現する用途はたっていない」は、実用化に向けた大きなハードルであると想像される。研究期間内に問題が解決されない可能性もあり、研究期間後も解決に向けて関係者との会合等を重ねるべきと考える。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 47 回新道路技術会議において審議したものである。